

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 1 月 17 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人 可部大文字会		
事業所名	グループホーム(山まゆ)フルーツハウス		
所在地	広島市安佐北区大林4丁目10-26 (電話) 082-810-5585		
自己評価作成日	令和2年12月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102884-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年1月14日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念である「山まゆ糸のような光輝く最高の人生を送られることを、心から願って」を念頭に置き、ご入居者個々の意向や生活歴に応じ、居心地よく、最高の生活の場であるように環境を整え、支援している。具体的には、24時間シートを活用する事で、その人の生活リズムを把握し、その人に合ったケアを常に考え実践しており、起床時間や入床時間などを好きな時間に行って頂いている事や、入浴時間や頻度の調整、日中の過ごし方（手芸や園芸）等、自己決定・自己選択出来る様に支援している。毎月、ケア会議、フロア会議を行い入居者のケア方法やレクリエーション、行事の開催など職員間で意見や提案を出し合い、より良いサービス提供ができるように努めている。現在はコロナ禍で難しいが、地域交流も盛んに行っており、近隣の保育園、小学校への行事参加や地域行事の参加、手伝いなど様々で、地域に共生した活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この地域は地域交流が盛んで、近隣の保育園や小学校のイベントでは声がかかったり、行事の準備の手伝い、交流会においては企画の段階から参加するなど地域との結びつきが強い施設である。日頃の散歩では、利用者が田園風景を眺めながらゆっくり散歩ができ、地域の方とも挨拶を交わす中で顔なじみの関係が築けている。日々のケアでは少人数の強みを活かし、本人のペースに合わせた介助を心がけている。具体的には起床時間や就寝時間は一緒にするのではなく、一人ひとりの生活リズムに合わせ、個別の対応を行っている。法人内に特別養護老人ホームなど他の事業所があるため、重度化した際にもスムーズな連携が図れる体制がある。今年度の目標である「レクリエーションの充実」では毎月料理レクに取り組んでおり、利用者と話ながらメニューを決め、フルーツパフェやケーキ、栗どら焼きなどを一緒に作り日々過ごしている。

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念、事業計画を建物内に掲示している。また、フロア・ケア会議の前には理念、施設目標を唱和しており、職員は理念を共有、周知している。理念、事業計画をもとに、業務、実践を行なっている。事業計画の進捗状況については、会議等で振り返り、評価を行い、日頃の業務に活かせる体制を整えている。	法人理念をもとにグループホームでの目標を立てている。今年度の目標はレクリエーションの充実と、職員の介護の質の向上を図っている。法人内での研修を充実させ、研修内容においてもアンケートを実施し、職員のモチベーションの向上につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し秋祭り、とんど等の地域行事や、近隣の保育園、小学校の行事等に参加し地域との交流を積極的に図っている。今年はコロナ禍により、地域の行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加できていない現状がある。	この地域は、つながりが強い自治会には入っていないが回覧板が回ってきたり、地域との交流会では企画の段階から参加している。施設の落ち葉を集め、田んぼの養分として撒いたり地域住民から駐車場の砂利の提供を受けたりといった事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や、地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、有識者、地域、家族代表等の参加があり、事業所の取組み、状況等を報告をしている。また、参加者から意見や地域の情報等を頂き、行事の実施や運営の参考にするなど、サービス向上に活かしている。	運営推進会議には地域住民として、民生委員、地域包括支援センター、家族代表の参加がある。内容としては、感染症対策を議題に挙げ、対策の徹底に繋がったり、行事として栗拾いの提案があり、楽しみのある外出につなげた事例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の議事録を安佐北区役所介護保険係宛てにFAX送信している。地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加されるため、その際、事業所の取組みを伝えている。安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている入居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。	運営推進会議の議事録を送付したり、管理者が居宅での介護支援専門員であったため、連携が良く図れており、困りごと等がある場合には相談し合える関係がある。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束に関する委員会の設置と、定期的に会議を行っている。研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知正しい理解を図り、「身体拘束をしないケア」を事業所全体で取り組んでおり、スピーチロックも含め、本人の行動を理解し、ケアの工夫により対応している。	身体拘束をしないための委員会の設置が法人にあり、グループホームとしても参加し、施設内研修を年に2回実施している。スピーチロックとしてちょっと待ってねと「待ってね」には理由をつけるようにして身体拘束しない工夫をしている。また、落ち着かない方には外出したり畑に行き気分転換をして対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を、研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。日頃の業務の中でも、入居者への言葉遣いや対応で気になることがあれば、職員同士声を掛け合ったり、指導をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、疑問点、質問に細かく答えて同意を頂いている。また、面会時や電話での対応もその都度行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見や要望はいつでも受け入れており、何でも話して頂ける雰囲気づくりに努めている。面会時、電話などやサービス担当者会議開催の際意見、要望を頂いている。ご入居者には日頃の関わりの中から意見や思いを伺っている。ご家族、ご入居者の意見、要望は職員間で情報を共有し、運営に活かしている。	ご家族の意見や要望の把握は電話にて確認するようにしている。具体的には、生活習慣に沿って編み物、裁縫等の趣味の継続として毛糸を用意している。また、買い物等の外出に対する要望には、可能な限り対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2カ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。	職員意見の把握は、普段の会話やフロア会議、ケア会議で取り入れるようにしている。そこで出た意見を、法人会議に上げ検討している。ケア内容では、ケア方法を話し合い、自立支援につなげた介護に変更した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課制度や、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話しやすい職場環境になる様に、普段から調整している。管理者による職員の個別面談も必要に応じ行い、やりがいをもち、働きやすい職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修委員会からOJTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のスキルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人がOJTでの研修体制となり、内部研修を実施していない為、管理者やリーダー以外の交流は、以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはつくられていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人、家族の意向、要望、不安点などの聞き、職員間で情報を共有し、安心して生活ができるよう配慮、環境整備を事前に行っている。入居後も本人の生活習慣、意向に応じ、無理強いすることなく、一日の生活の流れを覚えたり、他入居者との関係づくりができるよう配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時にご家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時にご家族、ご本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。その都度今のケアでいいのか職員間で相談し、適切なサービスを見極めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>生活の場であることを基本にし、ご入居者にとって家族のように何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。ご入居者、職員ともお互いに認め合い、感謝の気持ちを持った関係が持てるようにしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族と密に連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。また、本年度からは面会が少ない家族にも普段の様子が伝わる様に、写真等を活用した短文での手紙を定期的に出している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族、知人などいつでも気軽に面会できる体制を整えている。面会時は個室で気兼ねなく話ができるように配慮している。また、家族との外出や外泊もあり、馴染みの人や場との関係が継続できるように支援している。</p>	<p>これまでのなじみの関係が途切れないように、手紙を送るための便箋やポストイン等のお手伝いを支援している。馴染みの場所の継続は、ドライブを通じてスーパーや地域行事に参加することでなじみの方へ会う機会が持てるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出ることはしていただき、状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族より生活歴や意向を伺い介護サービス計画に反映させ、職員間で情報を共有し、支援している。入居者個々に応じ、趣味活動や生活リハビリ、嗜好品の提供、買い物などの取り組みを行い、思いや意向を汲み取り対応している。	入居前には情報収集のために実際に会ってお話をするようにしている。なるべく今までの生活に即したものとなるように、就寝時間や食事(ご飯、パン)等に対応するよう工夫している。また、趣味に関しても編み物等を続けられるように意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味をご家族、ご本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また、生活歴等にとらわれ過ぎない様に注意し、新しい事にも挑戦できるよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活リズムを把握する事からスタートし、24時間シートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向、要望を聞き取り、担当職員、必要に応じて医師、看護師等の意見も取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成している。ご本人のできる部分、強みを活かした内容になっている。モニタリングは担当職員が毎月行い、実施状況の把握をしており、次回の計画作成に活かしている。	担当職員がケアチェックを行い看護師や必要に応じて医師の内容をもとにケアプラン原案を6ヶ月に一回作成している。また、モニタリングは1ヵ月に1回担当職員が実施し計画作成担当者が管理している。また24時間シートを共有することでチームで取り組めるようなプランとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24時間シートに記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い支援ができるよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、現状把握に努め、半年で介護計画の見直しを管理者、介護計画作成者、居室担当で話し合い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの要望を日々のレクリエーションや行事、入浴等に取り入れ、幅広く、柔軟なサービスの提供を行い、入居者の満足感が得られるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流、スーパーへの買い物等、地域資源を活用している。また、「たけのこ会」という名称で、小学校の児童クラブ等に入れない子を対象にした預かり支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご本人、ご家族の意向に応じてかかりつけ医を決めており、内科は事業所の協力医に変更する事が殆どである。内科は定期的な往診があり、歯科についても必要に応じて事業所に来て、診て頂いている。また、他科の受診も希望に応じ職員にて対応しており、安心して医療を受けられる体制をとっている。	入居者全員が協力医の内科をかかりつけ医としている。このため2週間に一回往診を受けられている。専門医へは基本的に家族対応だが、施設の職員が対応することが多くなっている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間での情報交換、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また、早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化における対応に関する指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いを持つようにしている。法人本部と常に情報を共有し、状態に合わせて短期入所の利用、特別養護老人ホームへの入所なども行っている。	契約時に重度な状態になった場合に対して、説明を行っているが看取りを行った事例は無い。法人に特別養護老人ホームがあるため、重度化した場合はスムーズな連携がされ安心した介護が継続できるようなケア体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気付き報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24時間オンコール体制を取り職員の不安軽減に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内での火災避難訓練を定期的に実施しており、非常時に備え、メガホン、懐中電灯を常備し、また、非常食も備蓄しており、有事に備えた体制をとっている。地域の防災訓練にも職員が参加して、地域の協力体制を築いている。	年に2回火災訓練を実施し、うち一回は夜間想定訓練を行っている。万が一の場合には近くの大林小学校が避難場所となっているが、基本的には建物の2階へ避難するようにしている。また、地域の訓練にも参加することで連携が出来るようにしている。備蓄食は定期的に非常食を食する機会を設け更新を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はご入居者には敬意を払い、何事もご本人の気持ちを大切に考えケアに従事しており、接し方、声のかけ方について意識し、日々、接遇技術の向上に努めている。プライバシーについては、更衣、排泄時扉を閉める、排泄の事を大きな声で言わないなど、基本的な事を配慮し、支援している。	一人ひとりの人格を尊重するため職員目標での介助ではなく、利用者に合わせた介助を心がけ本人のペースに合わせてケアができるようにお互いが声を掛け合い支援している。トイレ誘導時には、周りに配慮した声かけを行い、見守りが必要な方にもドアを閉め、すぐ近くで対応できるようにケアしプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、ご入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず、自己決定、自己選択ができるよう努めている。言葉で十分意志表示できない場合は、表情を汲み取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。さらに、いつも同じような着回しにならない様に努めている。また、定期的に訪問理美容の方に来所して頂いたり、希望に応じ、化粧品等の購入も行っており、身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様のリクエストに応えながら、どら焼きやケーキなどのおやつ作りを行ったり、事業所内にある畑で野菜を収穫し、メニューに加えるなど食事が楽しくなる支援を行っている。出来る方には、盛りつけや食器洗い、お盆拭きなど無理のないペースで行っていたいっている。	ご飯、お汁は基本的に毎食手作りにて提供している。おかずに関しては配食サービスを利用しながらもお皿を変えたりなじみのコップ等を使用することで楽しみのある食事となるように工夫している。また、料理レクリエーションとして毎月一回実施し、フルーツパフェや、ケーキ等をみんなで一緒に作っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後全員口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の記録をもとに、ご入居者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っており、トイレでの排泄を基本にしている。自立の方も、トイレの間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。排泄動作も自分で出来るところは行って頂き、自立に向けた支援をしている。</p>	<p>施設のトイレは広く作っており車椅子も介助しやすい環境となっている。排泄しやすくするために朝に冷水を飲んでいただき、体操を行うことで自立排泄を促している。また、排泄チェック表をもとに、排泄間隔を探り、事前に介助することでリハビリパンツからパットのみに変更した事例もある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ下剤に頼らず、起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報共有する事で排便確認の徹底や、長めに座って頂き腹部に力を入れてもらえるように声掛けを全職員が行える様にしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、入浴時間もゆっくり浸かるなど柔軟に対応している。利用者との会話や一緒に歌うなど入浴の時間が楽しい一時になるよう工夫している。</p>	<p>1日おきには入浴できるようにケアしている。状態に応じて時間帯は配慮している。入浴を楽しめるように、着たい服の準備での会話や入浴中、歌を歌いながらマンツーマンでの時間を大切にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの習慣に合わせて就寝時間、起床時間、午睡等は自由に行っている。夜間は2時間に1回の巡視を行うが、起こさないよう扉の小窓から覗くなどの配慮も行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>内科往診にて、主治医から処方があった段階で、看護職員から、管理者や介護職員に報告と説明を行い、情報共有に努めている。服薬後の小さな状態変化についても看護師、管理者に報告し、主治医に連絡する等の対応を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの生活歴、好きなことに合わせ手芸や園芸、レク、生活作業等を提供している。また、その人の気分に合わせ、レク等も無理強いせず自由参加としている。さらに、一人になる時間も大切に、居室で過ごされている際には、おやつ提供の時間をずらしたりと柔軟に対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日頃から近隣へ、個別や小人数での散歩を行っている。ご入居者からの希望があれば、職員間で検討したのち日程調整を行い、個別対応や外出レクとして希望が反映出来る様に努めている。今年はコロナ禍で難しい部分があるが、買物、栗拾い、紅葉狩り等で外出を行った。</p>	<p>日常的な外出として希望者を募り気候の良いときには散歩に出るようにしている。散歩コースは近隣をまわりながら挨拶を交わし交流がある。買い物の希望として、車で外出したり、行事として紅葉狩り、栗拾いに行ったりと気分転換に繋げている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者の金銭管理は紛失等のリスクもあり、行っていない。ただし、要望に応じて家族様に確認を行い、法人本部の金庫から出金し、一緒に買い物に行く等している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。その際には、管理者からご家族に確認を行い間違いの無い様に努めている。また、ご家族の了承、ご本人管理のもと携帯電話を持っているご入居者も数名おり、自由に連絡をとられている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保ち、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。季節の飾りや、製作物を飾り、季節感や生活感が感じられるよう工夫している。また、ソファやフットマッサージ機もあり、居心地よく、くつろいだ空間になるように配慮している。	過ごしやすい共用空間のために常に清潔を意識し清掃に努め、テレビの音も大きすぎないように配慮している。また、足裏マッサージやソファを配置しゆったりと過ごせるように工夫され季節ごとに楽しみが持てるように壁画作りも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧出来るように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご家族に自宅等で実際に使用していた家財の持参を、可能な限りで、お願いしている。配置は、動線を確保し入居者様、家族様と一緒に使いやすい様に設置している。また、状態に合わせて配置等の検討も随時行っている。自宅同様にご本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	ベット、カーテン、照明、クローゼットが基本配置されている。危険物以外は持ち込み自由となっており、使い慣れたものを使用することで過ごしやすい配慮がなされている。また、本人自慢のトロフィーや、仏壇を持ち込まれている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーで、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目(1階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念、事業計画を建物内に掲示している。また、フロア・ケア会議の前には理念、施設目標を唱和しており、職員は理念を共有、周知している。理念、事業計画をもとに、業務、実践を行なっている。事業計画の進捗状況については、会議等で振り返り、評価を行い、日頃の業務に活かせる体制を整えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し秋祭り、とんど等の地域行事や、近隣の保育園、小学校の行事等に参加し地域との交流を積極的に図っている。今年はコロナ禍により、地域の行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加できていない現状がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や、地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、有識者、地域、家族代表等の参加があり、事業所の取組み、状況等を報告をしている。また、参加者から意見や地域の情報等を頂き、行事の実施や運営の参考にするなど、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の議事録を安佐北区役所介護保険係宛てにFAX送信している。地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加されるため、その際、事業所の取組みを伝えている。安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている入居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束に関する委員会の設置と、定期的に会議を行っている。研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知正しい理解を図り、「身体拘束をしないケア」を事業所全体で取り組んでおり、スピーチロックも含め、本人の行動を理解し、ケアの工夫により対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を、研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。日頃の業務の中でも、入居者への言葉遣いや対応で気になることがあれば、職員同士声を掛け合ったり、指導をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書、重要事項説明書の内容を丁寧に説明し、疑問点、質問に細かく答えて同意を頂いている。また、面会時や電話での対応もその都度行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの意見や要望はいつでも受け入れており、何でも話して頂ける雰囲気づくりに努めている。面会時、電話などやサービス担当者会議開催の際意見、要望を頂いている。ご入居者には日頃の関わりの中から意見や思いを伺っている。ご家族、ご入居者の意見、要望は職員間で情報を共有し、運営に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2カ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課制度や、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話しやすい職場環境になる様に、普段から調整している。管理者による職員の個別面談も必要に応じ行い、やりがいをもち、働きやすい職場になるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修委員会からOJTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のスキルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人がOJTでの研修体制となり、内部研修を実施していない為、管理者やリーダー以外の交流は、以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはつくられていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人、家族の意向、要望、不安点などの聞き、職員間で情報を共有し、安心して生活ができるよう配慮、環境整備を事前に行っている。入居後も本人の生活習慣、意向に応じ、無理強いすることなく、一日の生活の流れを覚えたり、他入居者との関係づくりができるよう配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時にご家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご家族、ご本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。その都度今のケアでいいのか職員間で相談し、適切なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場であることを基本にし、ご入居者にとって家族のように何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。ご入居者、職員ともお互いに認め合い、感謝の気持ちを持った関係が持てるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族と密に連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。また、本年度からは面会が少ない家族にも普段の様子が伝わる様に、写真等を活用した短文での手紙を定期的に出している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人などいつでも気軽に面会できる体制を整えている。面会時は個室で気兼ねなく話ができるように配慮している。また、家族との外出や外泊もあり、馴染みの人や場との関係が継続できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出ることはしていただき、状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族より生活歴や意向を伺い介護サービス計画に反映させ、職員間で情報を共有し、支援している。入居者個々に応じ、趣味活動や生活リハビリ、嗜好品の提供、買い物などの取り組みを行い、思いや意向を汲み取り対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味をご家族、ご本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また、生活歴等にとらわれ過ぎない様に注意し、新しい事にも挑戦できるよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活リズムを把握する事からスタートし、24時間シートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人、ご家族の意向、要望を聞き取り、担当職員、必要に応じて医師、看護師等の意見も取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成している。ご本人のできる部分、強みを活かした内容になっている。モニタリングは担当職員が毎月行い、実施状況の把握をしており、次回の計画作成に活かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に24時間シートに記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い支援ができるよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、現状把握に努め、半年で介護計画の見直しを管理者、介護計画作成者、居室担当で話し合い実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの要望を日々のレクリエーションや行事、入浴等に取り入れ、幅広く、柔軟なサービスの提供を行い、入居者の満足感が得られるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流、スーパーへの買い物等、地域資源を活用している。また、「たけのこ会」という名称で、小学校の児童クラブ等に入れない子を対象にした預かり支援も行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にご本人、ご家族の意向に応じてかかりつけ医を決めており、内科は事業所の協力医に変更する事が殆どである。内科は定期的な往診があり、歯科についても必要に応じて事業所に来て、診て頂いている。また、他科の受診も希望に応じ職員にて対応しており、安心して医療が受けられる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員と介護職員間での情報交換、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し情報収集している。また、早期に退院できるよう病院関係者と管理者間で情報交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化における対応に関する指針を説明し、同意を得ている。重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いを持つようにしている。法人本部と常に情報を共有し、状態に合わせて短期入所の利用、特別養護老人ホームへの入所なども行っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気付き報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24時間オンコール体制を取り職員の不安軽減に努めている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>事業所内での火災避難訓練を定期的実施しており、非常時に備え、メガホン、懐中電灯を常備し、また、非常食も備蓄しており、有事に備えた体制をとっている。地域の防災訓練にも職員が参加して、地域の協力体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員はご入居者には敬意を払い、何事もお本人の気持ちを大切に考えケアに従事しており、接し方、声のかけ方について意識し、日々、接遇技術の向上に努めている。プライバシーについては、更衣、排泄時扉を閉める、排泄の事を大きな声で言わないなど、基本的な事を配慮し、支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、ご入居者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず、自己決定、自己選択ができるよう努めている。言葉で十分意志表示できない場合は、表情を汲み取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。さらに、いつも同じような着回しにならない様に努めている。また、定期的に訪問理美容の方に来所して頂いたり、希望に応じ、化粧水等の購入も行っており、身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様のリクエストに応えながら、どら焼きやケーキなどのおやつ作りを行ったり、事業所内にある畑で野菜を収穫し、メニューに加えるなど食事が楽しくなる支援を行っている。出来る方には、盛りつけや食器洗い、お盆拭きなど無理のないペースで行っていたいっている。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後全員口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の記録をもとに、ご入居者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っており、トイレでの排泄を基本にしている。自立の方も、トイレの間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。排泄動作も自分で出来る場所は行って頂き、自立に向けた支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ下剤に頼らず、起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報共有する事で排便確認の徹底や、長めに座って頂き腹部に力を入れてもらえるように声掛けを全職員が行える様にしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、入浴時間もゆっくり浸かるなど柔軟に対応している。利用者との会話や一緒に歌うなど入浴の時間が楽しい一時になるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの習慣に合わせて就 寝時間、起床時間、午睡等は自 由にしている。夜間は2時間に1 回の巡視を行うが、起こさない よう扉の小窓から覗くなどの配 慮も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内科往診にて、主治医から処方 があった段階で、看護職員から、 管理者や介護職員に報告と説明 を行い、情報共有に努めている。 服薬後の小さな状態変化につ いても看護師、管理者に報告し 、主治医に連絡する等の対応を 行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの生活歴、好きなこ とに合わせて手芸や園芸、レク、 生活作業等を提供している。ま た、その人の気分に合わせ、レ ク等も無理強いせず自由参加 としている。さらに、一人にな る時間も大切に、居室で過ごさ れている際には、おやつ提供の 時間をずらしたりと柔軟に対応 している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	日頃から近隣へ、個別や小人数 での散歩を行っている。ご入居 者からの希望があれば、職員間 で検討したのち日程調整を行い 、個別対応や外出レクとして希 望が反映出来る様に努めている。 今年はコロナ禍で難しい部分 があるが、買物、栗拾い、紅葉 狩り等で外出を行った。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者の金銭管理は紛失等のリ スクもあり、行っていない。た だし、要望に応じて家族様に確 認を行い、法人本部の金庫から 出金し、一緒に買い物に行く 等している。		

自己評価	外部評価	項目(2階)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。その際には、管理者からご家族に確認を行い間違いの無い様に努めている。また、ご家族の了承、ご本人管理のもと携帯電話を持っているご入居者も数名おり、自由に連絡をとられている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアは常に清潔に保ち、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。季節の飾りや、製作物を飾り、季節感や生活感が感じられるよう工夫している。また、ソファやフットマッサージ機もあり、居心地よく、くつろいだ空間になるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧出来るように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご家族に自宅等で実際に使用していた家財の持参を、可能な限りで、お願いしている。配置は、動線を確保し入居者様、家族様と一緒に使いやすい様に設置している。また、状態に合わせて配置等の検討も随時行っている。自宅同様にご本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーで、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目(2階) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム（山まゆ）フルーツハウス

作成日 令和3年3月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で事業所と地域とのつきあいが制限されている。	可能な限り、地域交流を行う。	地域との交流の方法を会議を通じ、職員でアイデアを考えていく。	6ヶ月
2	13	非常災害についての、職員の意識の希薄化が感じられる。	非常災害について、職員の意識を高める。	防災教育を定期的に行う。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。